

令和 6 年度第 2 回羽島市総合教育会議（会議要旨）

日 時	令和 7 年 2 月 17 日(月) 午前 9 時 55 分～午前 11 時 05 分
場 所	羽島市役所第 1 委員会室
出 席 者	森嘉長教育長、今枝甫教育委員、春日民奈教育委員 今井田裕子教育委員、吉川功教育委員 松井聡市長 （事務局職員） 伊藤市民協働部長、岩田生涯学習課長、大橋同課主幹 吉田同課係長 （関係課職員） 不破教育委員会事務局長、小川教育委員会事務局次長兼教育政策課長、高橋教育委員会事務局次長兼学校教育課長
内 容	1 開会 ・ 会議公開及び傍聴の有無の報告 ・ 資料確認 2 あいさつ （市長） 3 協議（説明、意見交換をそれぞれ実施） 【説明】 生涯学習課が「羽島市教育大綱（案）」について説明 【意見交換】 （市長） 資料 1-1 に基づき、意見を賜りたい。基本的な事項であるページ左側の趣旨、位置付け、大綱の期間をあえて設けないという部分について意見があれば承りたい。 【意見なし】 それでは、ページ右側の基本理念に関して意見があれば承りたい。基本理念の部分について、新年度予算にこどものデジタル化など色々あったため補足をお願いしたい。 （教育委員会 教育長） 事務局からの説明で、「未来」「ともに」「笑顔」という 3 つのキーワードを言われたが、そこに加えて「学び」という言葉が非常に重要ではないかと思う。基本方針①②③、すべてに共通する「人づくり」は、どうやって学びをつくっていくかということである。学び

というのは、年上から年下へという発想もあるが、基本理念に書いてある、こどもも大人もともに学び、という水平方向の学びを大事にしていくこと、特に基本方針②と③にこれからの羽島市の方向性があると思う。学校の勉強だけではなく、地域における学びや、現在取り組んでいる部活動の地域移行も含めて、年代、世代を超えた水平方向の学びを豊かにしていくことが、未来の羽島を拓く人づくりにつながっていく。キーワードとして「未来」「ともに」「笑顔」は必要だが、防災や環境の問題も含め、学びをどういうふうに広げていくかという意味で基本方針②と③を大事にしていく必要があるのではないかと思う。

一方、基本方針①はどちらかというと学校教育のことで、色々な課題が山積しているが、こどもたちに学力と体力をつけることが最大のミッションである。ただ、学校教育においても多様性ということで、障がいや特性のあるこども、あるいは学校に適応しづらいこどもなど、多様なこどもを含めて、どうやって学びを展開していくかということも非常に重要になってくるのではないかと個人的に思っている。

(市長)

基本理念から基本方針まで話をいただいたが、基本理念の部分で委員の意見があればお願いしたい。

(教育委員会 委員)

基本理念の最後に記載の、誰一人取り残されることなく活躍できるまち、この実現はすごく幅広く重い、という感想を持っている。個人的な話だが、5年ほど前から付き合いのある事業者が、事業推進の一つとして、障がい者の方も雇用して事業を進めたいという認識を持っている方だった。言うのは簡単だが、推進するのはすごく重く難しいことではないかと感じている。これからの取り組みになると思うが、行政だけでなく民間も巻き込んだ、一人も取り残さないという取り組みをどうやって作っていくかというのが、非常に難しい。それを一つ一つ乗り越えていくのがきついただろうな、という感想を持った。

(市長)

国策の中でも福祉社会の創設ということで、誰一人取り残さない、というのが最近のフレーズになっている。そういう基本理念に基づ

いて、先ほど教育長からも紹介のあった基本方針が定まってくると
思うが、事務局で何かあれば説明をお願いしたい。

(生涯学習課)

「学び」という視点を加えてはどうか、という話だったと思うが、
その点については私どもも大事にしていきたい点であり、現在の文
言の中にはその思いが込められているというふうに捉えていただ
けるとありがたいと思う。

先ほど防災の話が出たので紹介させていただくと、先週土曜日に
地域防災の講座を「学事始」という形で実施し、参加者約 60 名のう
ち 1 割ほどが中学生の方だった。一番印象に残ったのは、講座が終
わってから、大人ではなく中学生が講師である中能登町職員に寄っ
て行き、色々な質問をしていた姿である。やはり生涯学習は大人向
けだけではなく、こどもたちも含めたものを進めていくべきだ、と
改めて感じたので、先ほどの話は私どもとして大変勉強になった。

(市長)

直近の例で大変すばらしい話を聞いて、心が熱くなった。

(教育委員会 委員)

こどもも大人もともに学ぶという観点で、先ほど教育長も言われ
たように基本方針①は学校教育、基本方針②にふるさと教育、基本
方針③で私たち大人の生涯学習、社会教育というような部分が柱立
てになっていて、基本理念ではこどもは安心安全な学校で学び、大
人も安心安全な地域社会で生活をして、いきいきと子育てもできる
というところが非常に大事なことになってくると思う。前回の総合
教育会議で色々意見が出て、それを取り入れられ文言も修正されて
いるので、基本理念について特段意見はない。

(教育委員会 委員)

昨日、三嶋先生の話聞いたときに、羽島市は 65 歳以上が 28% も
いると聞いた。非常に良い話だったが、シルバー講座ということで
参加者が高齢者ばかりだった。内容的には感染症が非常に難しい、
怖いものだという話で、すごく面白かった。小学生には少し難しい
が、中高生が聞くと、今後の生き方の方針のどこかに、感染症の怖
さが残る、こういった内容もこどもとともに学びたいと思った。理
念は良いと思う。

(市長)

羽島市内の 28.3%、約 18,900 人が 65 歳以上の方である。講師の三嶋先生は、非常勤として羽島市民病院に従事している。大変熱心に話していただき、委員から良い感想をいただけたのは本当にありがたいと思う。

今、情報収集能力と意欲が非常に強いのは中学生、高校生であり、シルバー関係がやや不安な部分があるので、基本方針③のあたりで皆様の意見を賜りたいと思う。基本方針、学校教育からふるさと教育、地域の連帯、そして生涯学習全般と、基本方針①②③で明示している。どの関係でも結構なので、委員から意見があれば承りたい。

(教育委員会 委員)

基本方針①について、文言そのものは特に異論はない。以前は国際化、グローバルな視点、というキーワードが非常に重んじられていたが、最近あまり聞かれなくなったが、将来に目を向けたときに少子高齢化の中で、日本も色々なものを受け入れなければならない状況になるのではないかと。身近なところで、国際化やグローバルな視点も入れながら、多様な他者との関わりの中でお互いを理解して共存していく、という視点が非常に大事だと思う。世界に目を向けたときに、国際情勢が激動する現状だからこそ、将来を生きることが子どもたちが希望と展望を持って多様性を認めながら、互いに理解し、共存するという態度を学校教育の中で養っていくことは最も大事なことでと思う。グローバル的な視点を、21 世紀を生きていく子どもには持ってほしいというのが 1 点である。

2 点目、基本方針②のふるさと教育はどこでもやっていると思う。私は羽島で生まれて、羽島で育ち、羽島市にはとても愛着はある。岐阜県と言うと、高山とか山のイメージがあるが、羽島市は 100% 平野で、こういうところは岐阜県の中では極めて珍しく、開発可能性のある非常にポテンシャルの高いところであると思う。そういった中で、郷土愛を育んでいく、ふるさと教育をやるのは、主に小中学校の総合的な学習の時間だと思う。特に今、キーワードとして、ディープラーニング、ということが言われている。すなわち探究活動である。今までの学力では暗記力や計算力が重視されたが、そうではなく、そういったものを使って何か課題を持って自分たちが深く探求して調査する、体験する、あるいは実際に現地へ行って自分の目で確かめるということが求められる。何らかの体験や感動が心に響いて、故郷というものを実感し、羽島市に生まれ育ってよかった

なということに繋がっていくことが大事だと思う。その一番の元はやはり知ることだと思う。羽島市にはこういう良いところがある、今は水害もなく、災害の少ない羽島市になっているが過去はどうだったのか、あるいはどんな偉人が出ているのか、そういうことを知ることによって、愛着というものに繋がっていく、心の拠り所としての羽島に繋がっていくと思う。

(市長)

外国人の子弟の方、あるいは価値観の違う方ということで、小学校あるいは中学校で、現在力を入れている教育の方針や実践があれば紹介いただけるとありがたい。

(教育委員会 教育長)

国際理解教育とあわせて、グローバルな視点という話もあったが、基本的に羽島市は他市町に比べると外国に由来のあるこどもが少ないほうの自治体だと思う。現在、市内では40名近くみえる。実際にそういうこどもと接することは本来の国際理解教育だとは思う。

それとは別に、国際交流委員のラウルさんが色々やっていたいており、いくつかの小学校では実際にスリランカのこどもとオンラインで交流を図っている。あるいは、国際理解の一つに言語の習得は非常に重要であり、英語学習を通してできるだけ多文化理解を深めていくということで、先日、予算の中でAIアプリの導入を発表させていただいた。

基本的にこどもたちにとってグローバルな視点というのは、色々な場面や機会が無いとてない状況なので、今後さらに検討していく必要があると思う。

(市長)

自分の記憶だと、中学校、高校の日本の社会科では、授業のタイムリミットで近代史まで至らず、平和とは何か、戦争の無い国際協調は何なのかということについて、学ぶ機会がない。

平和教育などは実際に学校で行われているのか。

(教育委員会 教育長)

平和教育ということに特化はしないと思うが、中学校では広島に修学旅行へ行ったり平和学習を行っている学校もある。

私の考えを述べさせていただくと、学校というのは先ほどもあつ

たように、どちらかというと内向きである。学校の中のことは学校の中で完結していくので、黙っているとどんどん内向きになっていく。基本方針①の 2 行目に、多様な他者との関わりの中で、という文言があるが、できればこのフレーズは、確かな学力と健やかな体力、の前に持ってきてもらえると良いのではないかと考えている。大人と子ども、あるいは学校内外、さらには広く日本、グローバルな視点ということで、より広い視点を持ちながら学習をしていってほしいというのが願いとしてある。例えば SDGs に関わって色々とグローバルな視点で取り組んでいる羽島中や竹鼻中もあり、そういった点から平和学習に繋がっていく部分はあるのではないかと考えている。本市も市長のリーダーシップのもとで非核平和都市宣言をしたが、そういったことも契機にしながら、さらに検討していきたいと思う。

(市長)

基本方針①で、多様な他者との関わりの中で、という文言を、整え、の後に入れると良いという意見が教育長からあった。基本方針①の関係で何か意見があればお願いしたい。

(教育委員会 委員)

私のサラリーマン人生の中で、多様性について、時にはかなり厳しい環境の中で仕事をしてきたので、支え合う人づくりという言葉が、極めて私にとっては柔らかい。多様性を受け入れるような言い方になっているが、私の経験の中では日本の文化や常識をどれだけ説明しても、全く聞いてもらえない人たちとも仕事をしてきた。残念ながら、今の日本人は、日本語が話せない人が目の前に来たときに、8割方は避けてしまうと思う。そのときにきちんと説明をして、日本はこうなんだ、日本に来た以上はこれが最低限のモラルだ、と言い切れるような人を育てない限り、日本は壊れると思う。多様性を尊重し支え合う人づくり、私にとっては非常にうまく言葉を作ったと思ったが、支え合うということを相手に理解してもらうというのも含めて考えれば、原案の文章でいいと思う。少し前までの日本は、何でも受け入れるという空気だったと思うが、そういったことから脱皮して、日本の良いところはしっかり相手にも理解してもらい、共存できる社会をともに作る、という考え方にしていく必要があると思う。そういう姿勢を持たないと、日本の良い歴史が崩れていってしまっていて残念だと思う。アジアだけでも一つでなく、中

東に行ったら日本の常識はほとんど引っくり返る。そういう人たちとの共存ということまで考えていくと、非常に重いタイトルだと思う。学校教育、社会の教育でどこまでやるのかということを私自身も考えながら、息子や娘を育てているが、そういったところまで踏み込んだ多様性を尊重し合える人づくり、社会づくりというのを念頭に置いてやっていく必要があるのではないかと思う。

(市長)

基本方針①は委員が言われたとおり、特に義務教育課程の關係に重点が置かれている。スリランカのアスリートと交流会をやったときも、羽島市の中学生は積極的に語りかけをしてくれるし、また、リモートの会議でも羽島中の英会話クラブががんばってくれたり、アジアジュニア大会の時でも県内最高の応援団ということで、この世代は本当にアグレッシブに、協調の教育環境の中で育って、健やかに成果が出ていると私は思う。

(教育委員会 委員)

私は羽島市総合計画審議会に委員として出ていたので、羽島市第七次総合計画を見ながら、教育大綱を見たが、基本方針②や③は総合計画の施策の方針と結構重なって、こういう方針だからこういう事業をやっていきますということがよく流れている。基本方針①については重なる部分もあるが、総合計画の施策の方針の中には、「体験やコミュニケーションを通して、豊かな人間性を育むとともに、様々な情報や多様な考え方から学びを深め、志をもって自己の可能性を広げる児童生徒の育成を目指します。」と書いてある。現在、全国の学力状況調査で、こどもたちの自己肯定感が低い、ということを言われている。こどもたちが自分に自信を持つために基礎的な学力や体力をつけるわけだが、総合計画の方針の中の、「志をもって自己の可能性を広げる児童生徒」という部分がすごく良い言葉だと思っている。しかし、基本方針①の中では、こどもたち一人ひとりが自信を持って自分の可能性を広げてほしい、そんな児童生徒を育ててほしいという部分が読み取れないと感じた。逆に、基本方針①の中の、支え合う力を身につける、というところは総合計画には書かれていない言葉で、これは施策や事業を読ませてもらっても、支え合う力はどこで育てるのか、読み取れる部分が無かったので、基本方針①だけ総合計画とは微妙に違うところが読み取れるかな、と感じた。

付け加えて言うと、総合計画では、基本方針①にある、身につけ、という言葉が漢字になっていた。また、基本方針③、さまざまな、という言葉も漢字になっていた。

(教育委員会 委員)

今まで、外国籍の方と関わることがなく生活をしてきたが、最近になってこどもの習い事に関わる機会があって、例えば何時までに来てくださいね、が伝わらないとか、関わることの難しさをすごく痛感している。こどもはどうかというと、こどもは何もそんなに気にしていない。外国籍の子が学校にいたり、幼稚園の頃でも、障がいのある子が同じクラスにいたり、小さい頃からそういう子と一緒に空間で生活しているので、大人が感じるようなハードルはあまり感じないのかな、と思っている。

話は変わるが、2024年の小中学生の自殺者数が過去最多の527人というニュースを知って、何か言葉にならない気持ちになった。いじめの報告内容を聞いたときに、やられている子や周りで目撃している子の気持ち、心の傷や、何かこの先に対する不安な気持ちなどをつい考えてしまって、誰も信用できないという思いにならないような人との関わり方を学んでいってほしいと思う。親、先生、友達、地域の方、色々な年代の人と関わることで、どこかに絶対自分の居場所がある、ということを知って生活してくれると良いなと思っている。大前提として、まず自分を大切に思える人づくりから始まって、そうなれば相手がどういう人であろうが、相手の気持ちを考えたり、思いやれるこどもや人が育っていくのではないかと感じた。

(市長)

基本方針①に意見がたくさんあったので、整理をさせていただくと、多様な他者との関わりの中で、という言葉を前の行の、整え、の後に入れてはどうか、という関係は事務局で調整をお願いしたいと思う。

もう一点、総合計画との整合性を取る、という中の文言として、自らの志を持って可能性を広げる、そうした言葉も基本方針に組み込めないか、といった意見であったと思う。この中には、先ほど委員が言われた、自分、それから他者も大切にするというような事柄で、互いを理解し支え合うというあたりの調整を図る、という形でまとめてよろしいか。事務局で調整をお願いし、再度大綱案を各委

員に紹介をいただくということで、基本方針①は終了したいと思う。

基本方針②と③については、委員からも総合計画との整合性がとれている、という意見もあった。基本方針②は委員が言われた、ふるさと教育という部分であり、こどもも大人も地域社会との繋がりを深め、というあたりでのディープラーニング、深い学びということである。基本方針②について意見があればお願いしたい。

(教育委員会 委員)

小学 2 年生の生活科で、地域の神社仏閣、あるいはコミセンなどの公共の建物を見学して、その館長や神社の神主から話を聞くということがあるが、それとは別に総合的な学習の時間で、地域のことを学んでいる。地域ごとに歴史があり、神社仏閣へ行くと必ず掲示板がある。例えば、小熊町の一乗寺では織田信長ゆかりの地であるとか、桑原町の真福寺では名古屋の大須観音の元祖である、といったことが掲示板に書かれていて、羽島市は結構歴史がある場所だと気付く。ふるさと教育をしていくときに、本だけ読むのではなく、実際に現地へ行って自分の目で見て、昔同じ人がここを歩いたとか、ここを通ったとかと思うと、やはり少し違った思いを持つのではないかと思う。

(市長)

市内の小学 4 年生は必ず、羽島市の歴史民俗資料館で歴史学習を受講しているが、そういう形の中で身につけた記憶がどこかで飛んでしまうことが心配である。高校生あたりまでは羽島市への愛着が非常に強くて良いと思うが、その後、年を重ねると羽島市は何も魅力がないとか、記憶が無くなる世代が非常に多いのかなと思う。基本方針③の部分については基本的に、この基本方針を再検討することではなく、今後のアクションプランの中で、委員が言われた事柄を充足していくような形でフォローアップをするということに進めたいと思うがどうか。

個人的に一番興味があったのは、基本方針③の部分であり、まさに生涯学習の要旨がここに書いてあるが、この基本方針③について意見があれば承りたい。

(教育委員会 委員)

どういう言葉にして良いか分からないが、私の人生を振り返ると、社会人になってからのほうが勉強量が多かった気がする。生涯にわ

たり学び、というのは、社会をいきいきと楽しく生きていくためには必要最低限のことだと思うが、我々がこれから若い方や中年の方々にどんな環境を提供できるかというのは課題であり、環境づくりについて今後検討していく必要があると考えている。文章としては異論ない。

(教育委員会 委員)

昨日聞いた話の中で、羽島市には 100 歳の方が 31 人もいて、そのうち 26 人は女性だと、女性は夫が亡くなって 10 年は 1 人で生きなくてはいけない、とあった。女性の方がどちらかというと家にこもるので、こういう人たちが外へ出て、自分らしく寿命を全うできるように元気に生きていくためには、学んだり集まったりするスペースは必要だと思う。今日の新聞に、学校の跡地をそういう集まる場にするという記事が出ていて、羽島市内に 28%いる高齢者が家へこもらずに、サロンのようなところで集まって話をしたり、何かを学んだりできる場が近くにあれば、大勢の人が出かけ、健康に生きていけるだろうと思う。また、学校の跡地のようなスペースで、こどもも集まれば、異年齢の中で交流ができ、放課後を 1 人で過ごすこどもたちがお年寄りの中に混じっているいろんなことを喋ったり学んだりできる。そんなことができるようになったら本当に理想だと思う。

誰一人取り残さないというのは、お年寄りも独居老人にしないとか、みんなが誘い合って出ていけるようなそんな生涯学習になっていくと良いと思う。

(教育委員会 委員)

先日、娘の授業参観があり、1 人ずつ将来の自分についての発表をしていた。例えば親の仕事や習い事の先生の姿を見て、自分もこの仕事がしたいとか、今がんばっていることを続けていって、いつか人に教えたいとか、学校での体験学習をきっかけにその仕事がしたいと思った、という子が結構いて、人から人へ繋がっていくとはこういうことなんだと思った。発表した子の中で、学校の体験学習で、左官の仕事を体験してみて、それで左官の仕事を知ってやりたいと思ったという子がいて、すごいと思った。きっかけがないとそういう仕事も分からないし、教えた側の左官の方も、こどもがそういうふうに感じてくれたというのを知ったらすごく嬉しいと思う。教える相手がいるともっとがんばろうとか、教えてもらったらこういうふうにやるんだとか、お互いに学んでいけるとすごく感じたので、

さきほど委員が言われたように、いろんな世代の人が関わる場所があると、そういうことも自然とできていくのかなと思った。

(教育委員会 委員)

基本方針③について、結論的にはこの文章は非常によく練られて何も問題はないと私自身は思っているが、読む人によって色々あると思う。自分に置き換えて読むと、自分らしくということで、欠点とか良い点とか色々あると思う。何が特徴的なことなのか、それをどうやって日常生活や地域社会、いろんなところへ生かしていくのかということを考える。それから「健康で」というのは、元気なときは当たり前だと思うけれど、ある程度年齢がたって病気がちになると、健康ほど大事なことはないし、健康を維持していくにはどうやったらいいのか考えさせられる。それから「心豊かに」ということで、物質的なことは満たされても、心豊かにいうことは自分で働きかけて努力して豊かにしなければいけない。ある程度の条件整備は行政の側でやっていくということだと思うが、こどもの学ぶ主体性が大事だということと同時に、非常に激しく変化していく社会の中では、大人も人間としての生活を豊かにするには、自分の働きかけ、主体性というのがポイントになる。文言としてはこれで非常に良いが、政策を具現化して訴えていくには少し工夫がいると思う。コミュニティセンターなど色々なところがあるが、コロナや時代の変遷で、活動するお年寄りはずいぶん減ってしまった。条件的にはある程度整備されていて、色々な講座があり、やりたいことも遠くまで行かなくても地域で整っているけれど、今度は人の結びつきが薄くなってしまったところをもう 1 回立て直していくことが大事だと思う。要するに教育大綱で基本方針③のように謳っている中で大人がまず健康でないといけなく同時に生活が安定しないといけなく。それから地域や人間関係が温かいということ。経済的なことは予算もあって限度があると思うが、地域の人たちが温かいというのは努力でできる。だから、温かい地域はどうやってできるかというところに工夫がいるのではないかと思う。ある程度条件的なものも整備されてきているが、一番大事なことは、人と人の結びつきがあって、温かい地域社会が育っていること。そういう中で安心安全で子育てもでき、その一つの条件として給食費無料化とか、いろんな政策が出てきて、住みやすい、子育てしやすい地域であるということに繋がるのではないかと思う。

(教育委員会 教育長)

色々と意見を伺い、委員が言われたとおり、機会とか体験の場が非常に重要だと思う。前回の総合教育会議で、体験格差という話をしたが、小学生、中学生でも家庭の事情で体験格差が生まれている。それを是正するために学校で色々な体験を実施したり、あるいは普通では茶道や華道を習うことができない子でも、部活動を地域移行することでひと月 2 千円ぐらいの会費で茶道や華道を習うことができる。体験格差を是正していくことはこどもも大人も同じだと思う。行政だけではなく、3つのスポーツクラブに新しい団体を立ち上げていただき、中学生の文化部活動も運営していただいているが、こういうのが広がっていくと良いと思う。

もう一つは、体験や機会の質的な向上を図っていく必要があると思う。先日、コミュニティスクール協議会を開催し、各学校運営協議会の委員の方に来ていただいて色々協議いただいた。どうやって児童や生徒の意見をコミュニティスクールの運営に反映させていくか、というテーマで話をしていただいた時に、例えば、色々な町民運動会や文化祭でボランティアの子が来るけれど、ボランティアには物を渡すだけの手伝いだけさせている。中学生くらいなら企画の段階から参加してもらっても良いのではないかと、という意見が出た。この基本方針③の、「生涯にわたり学び、いきいきと活躍できる」ということを考えると、私たちはともすると機会や体験をつくることに偏りがちだが、学びの視点からいくと、色々な活動を質的に高めていくかということ、こどもたちも大人も機会や体験の質的な向上を図っていくことが必要ではないかと思った。

(市長)

基本方針③の文言については、具体的な変更の意見はなかったところである。

今一番心配しているのは、市行政の情報発信は他の自治体に比べても遜色ないと思っているが、その受け止め方が非常に残念であり、事実を事実として確認をされないということが多いと思う。

もう一つは、集う場所の問題である。人口が偏在化していく中で、旧の町村に関係するコミュニティセンターがあるが、コミュニティセンターの大きさや老朽度もある。市の南部ではお茶飲みサークルのようなものをやってみえて、女性の参画率は非常に高いが、それがレアケースになっている。いわゆる入れ物がなければ人は集まらないし、地域のリーダー、対外的な折衝のできる方々を継続的にあ

る程度確保していかないと、集う場の運営や、老人クラブも衰退化する。それから羽島市の自治会加入率は今、70%台前半になった。岐阜市の自治会加入率は全体で 53%であり、これでは地域のコミュニティが存続できないような時代にも突入をしてきているところである。

委員からの意見の中で、基本方針①については微調整を事務局に委ねるが、具体的なアクションプランについては、情報提供の市役所の責務であるとか、市民の方々が自身で考えていただくような活動、何を市民としてやらなければいけないのか、こういうあたりに向けて教育大綱、あるいは様々な形での地域コミュニティの関係で呼びかけをしていきたいと考えているので、ご理解いただけるとありがたい。

4 閉会

以上